

平成29年度 北海道滝川高等学校定時制課程 学校評価（年度末自己評価）結果（学年）

領域	番号	目標	本年度の具体的方策	担任・副担任の自己分析	次年度以降の目標達成のための取組や改善方法について
第1学年	1	基本的な生活習慣の確立を目指し、休まず登校する。	健康や安全に配慮し、規則的な生活リズムを身に付けさせる。	残念ながら1名退学者がでてしまったが、本校入学前にそれぞれ問題を抱え苦しんでいた生徒が、1年間登校できた意義は大きいと思う。特に皆勤賞を続ける和賀は称賛に値する。	2年次になり、高校生活に慣れることにより、欠席、遅刻、早退が増えてしまう生徒もいるので、現在の状況を維持できるように指導したい。特に春休みの過ごし方として、睡眠時間等基本的な生活のリズムを崩さないよう注意したい。
	2	授業に取り組む基本的な姿勢を身に付ける。	授業に対する意欲関心を持ち続けさせ、学び合う意識を高めさせる。	苦手科目の克服ができずに苦しんでいる生徒もいたが、殆どの生徒が落ち着いて授業に取り組み成績も良好であった。また、各教科の先生に授業前に勉強を教えてもらうために、早く登校する生徒もいた。	2年次になっても、学習に対する意欲を持ちづけられるように進路指導も含めて指導したい。また、基礎学力が身につけていない生徒については、学力向上講座などを通じて学習する習慣を身に付けさせたい。
	3	集団生活を通して責任感と協調性を培う。	清掃活動、学校行事やホームルーム活動に主体的に参加させる。	周囲とのコミュニケーションがうまくとれないことから集団での活動を苦手とする生徒がおり、学校行事等に参加できない生徒もいた。清掃活動においては、自主的に取り組む生徒が多く良好であった。	集団での活動にストレスを受けやすい生徒については、学校生活や行事等を通し、他者と自分との違いを受け入れ、価値観等の異なる他者とのコミュニケーションの取り方を理解していくことを指導し身に付けさせたい。
第2学年	1	基本的な生活習慣の確立をめざす。	学校生活全般において、自ら学ぶ習慣を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校に通い続けることが困難になり、3名が進路変更となった。また、高校入学以前からの習慣や持病が影響し、欠席日数が多い生徒がおり、進級に影響が出ている状況である。</li> <li>少人数となったが、授業に全員で参加するという意識が強まり、学習に取り組む姿勢が向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムが乱れないよう、日頃から生活状況に注視し、高等学校を卒業する意欲を持たせる。</li> <li>学ぶことに対して拒絶はしないが、集中力・持続力に力がかかるため、こちら側から日々働きかけていく。</li> </ul>
	2	集団生活を通じて、社会性や協調性を養う。	学校行事や生徒会活動を通じ、自主性・協調性を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団での活動を苦手とする生徒がいるが、修学旅行に全員で参加することができ、全員で話し合いをし旅行をすることで、時間やルールを守ること、他者への思いやりなどを身を持って理解することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者に厳しく自身に甘い面が多々あり、まずは自分自身の状況を客観的にとらえる訓練が必要である。また、他学年との交流を苦手としている生徒が多いため、全校生徒で実施する行事などへの参加を積極的に促していく。</li> </ul>
	3	進路に対する意識の向上を図る。	分掌とも連携し、進路に関する情報を積極的に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業説明会やオープンキャンパスなどに参加し、具体的に進路について考える機会があった。</li> <li>LHRや個人面談の中で、明確な目標ができた生徒がいる一方、曖昧な状況の生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の適性を理解できていない生徒が多く、職業についての理解も浅いため、進路通信や進路講話などを利用し見聞を広めさせる。</li> <li>進路が明確になった生徒については、進路指導部と連携して個別指導をすすめていく。</li> </ul>
第3学年	1	健全な生活習慣の確立をめざす。	学校生活全般において、自ら学ぶ習慣を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻や欠席が多く出席時数不足により単位を修得できない生徒が数名いた。結果、学業不振にも繋がっていると思われる。</li> <li>検定等へ積極的に取り組む姿勢が見られ、さらに合格することで自信をつけている生徒が多かった。</li> <li>基礎学力プリントの提出率が良くなかったのは今後の課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初より遅刻や欠席に対する指導を強くする必要がある。卒業学年として模範になるような学校生活を送れるよう指導する。</li> <li>基礎学力プリントを有効に活用することで、基礎学力を身に付けるさせる。</li> </ul>
	2	集団活動を通じて、社会性や責任感を養う。	学校行事や生徒会活動を通じて、コミュニケーション能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部の生徒が多い学年だったこともあり、各種行事への取り組みは大変良かった。特に学校祭でのパザーでは製造、販売とも大変だったが、誰一人文句等を言うことなく、最後まで協力してやり遂げていた。</li> <li>人数が多い学年であり、さまざまな性格の生徒がいる中で、相手を思いやることのできる生徒が多く、いじめなどを傷つけることはなかった。年齢もさまざまなことが良い影響を与えていると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会に関わる生徒が多い学年のため、生徒会行事にはより積極的に取り組んでもらいたい。生徒会以外の生徒への配慮も忘れず、クラス全員が楽しく充実した行事になるよう指導をしていく。</li> <li>人数は少なくなるが、より相手を思いやることのできる生徒になるよう指導を続けていく。</li> </ul>
	3	進路実現に向けた意識の確立を図る。	進路に関する情報を積極的に配信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路がなかなか決まらず苦労した生徒もいたが、諦めることなく挑戦し希望していた進路を実現することができた。</li> <li>卒業を目の前にし、未だ進路が決まっていない生徒がいるので、もっと早い時期から進路実現に向けての取り組みを促す必要があった。</li> <li>三修生への指導が中心となり、四修生に対しての指導が少なかったことを反省しなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路部と連携し、進路に関する情報は適時配信することができていたが、自ら情報を収集する力を身に付けさせる必要もあった。</li> <li>3学年は三修制と四修生がいるため、それぞれに適した情報配信や指導が必要になってくる。どうしても三修生への指導が中心となるが、四修生に対してもしっかりと指導していかなければならない。</li> </ul>
第4学年	1	個々の進路実現に向けた人生観の確立に努める。	進路情報の提供と適切な進路指導を行う。	進路については三者面談や個人面談を実施、生徒自身の意思確認を持って指導に当たった。面接時の練習に重点を置いて指導できた。	多くの教員で面接指導する場合、礼儀やマナーなどのマニュアルを整理し多くの教員が同じ指導ができるようにしておくのが望ましいと思われる。
	2	最上級生としての自覚を促し、自主性・社会性の育成に努める。	各種行事への参加を通して、責任ある行動と自主性・社会性を育てる。	役割分担や最後までやり遂げるなどの指導については、時間をかけ指導することができた。自主性については、まだまだ育っていないが、これから必要になることは理解できている。中学校で不登校や特別な支援が必要な生徒に指導するには、十分な時間が必要であり、その方法については一般の生徒と区別しながらでないと感じた。	
		教頭より		<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも担任及び副担任を中心に、細かく生徒理解・生徒指導・進路指導・学習指導をしており、多くの生徒たちは自己有用感を得ながら社会的良識を身につけ、着実に成長していると感じる。</li> <li>各学年のクラス運営を次の学年の先生に引き継げるよう留意する。</li> </ul>	